

## 児童相談所、又はその支所を安房地域へ

### 児童虐待により速やかに、適切に対応できる体制を。

児童虐待のニュースを目にすることが多くなりました。館山市内でも児童虐待の相談件数は増加しています。現在安房地域は君津児童相談所の管轄内にあり、市の家庭児童相談室で対応の困難な案件などは、君津児童相談所の職員が来て対応することになります。これにより緊急時の対応が間に合わない、1日に対応できる件数に限りがあるなど、多くの課題があります。安房地域、特に館山市内に児童相談所またはその支所を設置することを館山市は以前から要望していますが、安房地域の他の市町とも協力して、更に強く求めていくべきと考えます。

また、児童虐待の防止、早期発見のために、市は民生児童委員、主任児童員、保健推進委員、オレンジの会などにもっと協力を求め、子育て家庭の支援を行うべきと考えます。10月から子育て世帯包括支援センターが設置されます。形だけでなく、より有効に機能する組織としてほしいと考えます。

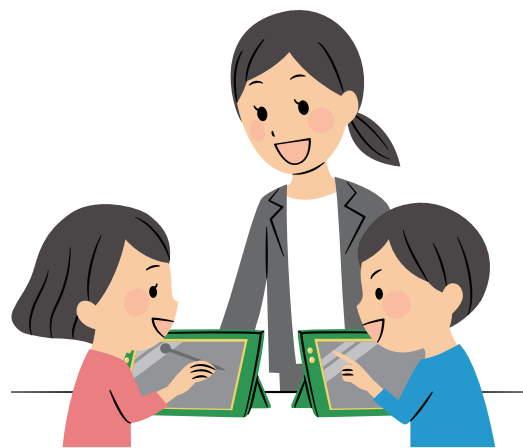
## GIGAスクール構想で変わるもの

### 子どもたちの個性に合わせた学びのために。

GIGA スクール構想によって国からの予算がおり、市内の小中学校のインターネット環境が整備され、子どもたちに1人1台のタブレット型端末が配備されることになりました。GIGA スクール構想のGIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略で、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校現場で持続的に実現させる構想」とされています。

令和2年度第2回市議会で1億9097万2千円、第3回市議会で2億9040万1千円の合計4億8137万3千円の予算がGIGAスクール構想のために計上されました。

子どもたちに与えられるタブレットはそれを実現するための道具です。一人一人違う個性を持った子どもたちがそれぞれの能力、好奇心に合わせて自ら学ぶ中で、創造性を育てていこうということです。



### 教育委員会、学校現場の考え方の転換が必要。

これを実現するためには、これまでの教室で先生が一斉に授業をする教育から抜け出さなければなりません。以前「ゆとり教育」の時にも子どもが個性に合わせて自ら学んでいくことを目指しましたが、思うように改革が進みませんでした。今回、多額の費用をかけるGIGAスクール構想によって日本の教育を変えていくためには、教育委員会、学校の教員たちがこのことの意味をしっかりと理解し、子どもたちの学びを支える力をつけることが必要だと考えます。今後、教員に求められるのは、子どもたちの個性に合わせて学びの方向を指し示し、より深めていく手助けを行うことです。「子どもに教える」から「子どもが学ぶ」に考え方を変えていかなければなりません。道具だけ揃えて、旧態依然の授業を行っては意味がないと考えます。「新しい学び」のための準備を先生方がしっかりとされることを期待します。

また、館山市内には不登校になっている小中学生が約40名います。保健室登校を入れればもっと多くなります。様々な理由で学校に通えない子どもたちの学びを保障することも可能になります。

### おわりに



新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけとして、世の中が大きく変わろうとしています。今までおかしいと思いながらも見過ごされてきたことが表面化して、デジタル化も一気に進むと思われれます。

「誰一人取り残さない持続可能な社会づくり」(SDG's)が提唱されています。それぞれの政策をこの考え方をもとに検証し、「それってみんなが幸せになるの?」と問いかけながら進めていくことが必要だと考えます。

